



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / 鉢バラ、ブルーベリー、初恋草、南半球植物全般

内山 輝亮さん (25歳)

(営農地 / 久留米市田主丸町)

人とのつながり「絆」こそが我が宝

《就農のきっかけ》

親の背中を見て決める

学生時代、中学では剣道、高校ではラグビーとスポーツに明け暮れる毎日だった内山さん。親の仕事を手伝った記憶はないそうです。地元の高校を卒業後は、九州東海大で4年間を過ごし、そこで、運よく現在の経営品目の一つであるブルーベリーの研究室に所属することができ、植物の基礎知識や交配手法について学ぶことができました。ただ、この時点では、親の経営があるので就農に有利とは感じたそうですが、まだ就農するかどうかについては、特に決めていませんでした。

そこで、大学卒業後は、親の勧めもあって、東京にある花き卸業で、2年間研修社員として働くことになりました。九州の地から離れたところで栽培現場や商品管理に触れることで、改めて実家の経営を外から見つめ直す時間を持つことができました。その結果、自家の農業の素晴らしさや両親の考え方を知ることができ、研修期間終了後、実家の経営に参画することに抵抗はなかったということです。



プロフィール

- 家族構成 / 祖父、祖母、父、母、本人
- 前職 / 花き卸業 ■営農年数 / 約1年半 ■従業員数 / 10名
- 耕作(経営)面積 / 施設66a+露地40a
- 販路 / 県内外の花市場

《これからの展望》

人と直に接することで、 つながりを広げていきたい

最近ではネットで情報を収集したり、フェイスブックやツイッターで情報発信したりすることがもてはやされています。ですが、自分では、できるだけ直接人と会って、話をして、その中から情報を得たり、逆に発信したりすることにこだわりたいと思っています。これは、常に親が実践している姿をみてそう思ったのです。

確かに、時代の流れはネット社会に移りつつありますが、それでは足りないものがあると感じているし、それなら尚更、人と同じことをしていても駄目だと考えています。

ものづくりも同様で、常にオリジナルとなる仕立方法や品種にこだわっていきたくですし、その結果として、我が家のパテント品種が増えれば海外展開やライセンス契約による収益が確保できたらと考えています。

《これまでの過程》

今は実家の研修社員かな

大学で一通りの知識を得て、花き卸業で製品の良し悪しや流通を学んでいましたが、いざ就農してみると、実際の経営は予想以上に難しいことが分かりました。

実家では、鉢物の栽培品目数が多い上、パートさんも10名と多いので前日までに作業指示書を作成しなければなりません。

作業内容も複数品目に渡るため、1日の作業が滞りなく流れるよう気を使う必要があります。現在は、パートさんに混じって、作業をする傍ら、両親の雇用管理がどうなっているのかを、雇われる側の目線で学んでいるということです。

「最近では、ようやく品種の交配や枝の仕立てを任せられたり、東京であるトレードフェア(商談会)に行かせてもらうようになりました。」と語ってくれました。



Good 成功のためのポイント

これからの展望で考えている夢を実現するために必要なのは「先を見る眼」と「本物を見極める眼」だと思っています。そのためにも多くの人と交流したり、例え農業と関係のないものでも常に新しいものや一流のものに触れておくことが成功のためのポイントだと考えています。父は何も言いませんでしたが、大学卒業後に東京での就職を勧めたのも、こうした「眼」を養うためだったのではないかと、今になれば思えます。そういう意味では両親にとっても感謝しています。

今後は、一流の経営者になることで両親に恩返ししていきたいですね。